り活性化され、血管の内皮細胞同士、または内皮細胞と壁細胞同士の接着を介して血管構造の維持・安定化させる役割を果たすとされる。

丸善製薬では、アンジオポエチン-1に代わりTie2を活性化させる食品素材の研究を進めている。これまでにヒハツエキスのほか月桃葉エキス、ハス胚芽エキスなどにTie2活性作用のあることを明らかにし、同作用は全身の健康に関与するとして普及・啓発を行っていた。

NHKがTie2を取り上げたのは昨年12月に続き2度目。以前と比べて消費者認知が高まっている可能性がありそうだ。

αCD シクロケムバイオ MTBIを安定化 抗肥満作用も確認

㈱シクロケムのグループ会社・㈱シクロケムバイオ（神戸市中央区）は、大根などに含まれる辛味成分で抗菌作用や抗酸化作用を有する4-メチルチオ-3-ブテニルイソチオシアネート（MTBI）をαシクロデキストリン（CD）で包接した結果、安定性が向上し、動物試験では抗肥満作用を示すことを確認した。

MTBIは植物中では配糖体として存在するが、細胞壁が壊れる「すりおろし」などで、酵素反応により生成される。性状は揮発性が高く不安定。

シクロケムバイオは、大根よりも同成分を多く含むカイワレ大根と各種CD含有水溶液をミキサーにかけ、その混合液を濾過してMTBI量を検査。その結果、αCD包接体はMTBI量が顕著に多く、安定性が高まったことを認めた。

また最新の研究では、肥満モデルマウスにαCD包接MTBIを飼料に混合して自由摂取させたところ、対照群と比べて、有意に脂肪と体重が減少した。